

平成 30 年度 第 2 回 学校運営協議会議事録

日時：平成 30 年 7 月 28 日（土）14:10～15:30
場所：神奈川県立市ケ尾高等学校 第 3 会議室

出席者（敬称略）

【委員】

- 倉岡 正高 （地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター研究所研究員）
 - 鈴木 秀幸 （地域住民）
 - 福田 晴好 （翔凜高等学校 特別講師）
 - 田中 多恵 （NPO 法人 ETIC 横浜ランチマネージャー）
 - 田口 亮 （東京都市大学知識工学部 教授）
 - 中村 浩樹 （本校 PTA 会長）
 - 内川 隆 （本校 同窓会長）
 - 増渕 広美 （本校 校長）
- （欠席者）
- 坂村 暁 （横浜市立市ケ尾中学校 校長）
 - 仁井田 尊史 （横浜市資源循環局青葉事務所 所長）

【事務局】

- 奥津 賢一 （本校 副校長）
- 寺澤 真治 （同 教頭）
- 黒柳 幸子 （同 地域連携・広報グループリーダー）
- 村田誠一郎 （同 学校運営協議会委員担当）

I 議 事（司会 副校長）

- 1 開会の言葉 出席者及び議事成立の人数確認。資料確認。
- 2 学校長挨拶

お忙しい中でのご出席に感謝申し上げます。指定を受けていない県立学校であっても、災害時に避難所の役割を果たすことが予想されることから、今年度、全県で県立学校における避難所協力の準備が進められている。横浜市においても県との協定が締結され、県立高校は「補充的避難所」として、特別支援学校は「福祉避難所」として指定を受けることとなった。先日、青葉区内にある県立高校 3 校の代表として、区役所の担当部署と打合せを行った。今後は、各校と区役所とで協定細則を結ぶことになる。

『校長室の窓（33号）』にあるとおり、今年度も青葉区から記載台と投票箱を借りて生徒会選挙を行った。今回の投票率は 88.4% で前年比 0.2% 増であるが、90% を超えたい。また、先日はバスケット界のレジェンドである元プロプレーヤーの大神雄子氏が番組収録のために来校し、男女バスケット部の生徒が収録に参加した。

開催時期を 6 月に移した体育祭が実際 1 か月の準備期間であるにも関わらず成功裏に終了した。詳細は『校長室の窓（34号）』をご覧ください。終業式では、「共

生社会の実現」について話をした。当日に配付した『校長室の窓（35号）』でも、2年前の津久井やまゆり園の事件を取り上げるとともに、「ともに生きる社会かながわ憲章」等を掲載している。

野球部が活躍し、女子バスケット部の生徒が国体参加選手や三県省道の派遣選手に選ばれた。書道部は全国大会に出展、生徒会も「日本生徒会大賞2018」で優秀賞を受賞した。

3 会長あいさつ

台風の中、参加に感謝する。西日本の災害など、祖母の家が岩国にある。被害に遭われた方はたいへんであろうと推察する。防災のことも話していきたい。

4 報告事項

○協議会委員

●学校（事務局）

(1) 各部会より報告

ア 評価部会（○倉岡部会長）

昨年を振り返り、今年の一年度の目標・観点について話し合った。生徒による授業評価をどのように生かしていくか、報告だけではなく改善につなげるためにはフィードバックが必要である。教科ごとの集計については、先生ごとの評価を分析するレベルまで踏み込んでいくべきではないか。

12月に行う保護者アンケートは情報が多すぎて回答しにくいのではないか。また、授業の評価よりも、子どもの様子について質問した方が答えやすいし、回収率の向上にもつながるのではないか。結果として何を評価するのか、質問事項について考えたい。評価を改善につなげていかないと意味がない。

イ 地域協働部会（○鈴木部会長）

部活単位で毎月いろいろなことをやっている。とても好評である。合唱部について、訪問した小学生から感謝の手紙をいただいている。とてもいい経験である。

ユースプロジェクトは、今年度新たなメンバーで活動を開始している。中学校との連携においては、いくつかの課題がある。参加人数もまだ少ない。予算の問題もあるが、今後の方向性を定めるためのプロジェクト計画ワークショップをやってはどうか。

おやじの会の活動が活発だった。バザー等の売り上げの使い道の一つとして、市ケ尾ユースプロジェクトへの活動支援をお願いすることを視野に入れてはいかか。夢がたくさんあり、モチベーションが上がる。

(2) 市ケ尾ユースプロジェクトについて

- 市ケ尾ユースプロジェクトは、参加者のチーム分けをしている。今年も青葉区区民まつりに参加する。

(3) その他の協働・連携について

- 部活動・委員会、地域との連携は 次回報告する。
- 鉄小学校との連携では、部活動が招かれる機会がある。その他、青葉警察署への協力や高齢者介護施設へのジャグリング部の訪問もある。
- 福田委員による国際理解勉強会（グローバル・リーダーシップ講座）も順調に進んでいる。7月5日は「国際人を目指す」という内容だった。県議会議員や県高校教育課の視察、タウンニュースによる取材及び紙面掲載等、注目されている。

る。本校の教育活動の活性化に対するご尽力に感謝申し上げます。

- 5回実施済みで、生徒は平均して16人ほど参加している。見学は、在校生、保護者、地域の方が各回平均11人くらい。講師のメッセージが届いていることを確認するため、生徒に「心のスイッチ」が入ったところをメモしてもらっているが、1年生もしっかり受け止めてくれている（関連資料配付）。
- 講座の感想を生徒がたくさん書いている。LGBTの件についても、生徒は素直に理解していた。
- 講義後も生徒から英語の必要性、学習方法から恋愛に至るまで多岐にわたる質問を受けている。
- 夏休み明けに、「異文化コミュニケーション」をテーマに再開される。

(4) ここまでの広報活動について

- 前回の連絡協議会で取り上げていただいた中学生への広報活動について、学校説明会を夏から秋へ変更した。丁寧な説明を心がけたい。

5 協議事項

(1) 同窓会の活性化について

- 各期における横のつながりはあるようだが、縦のつながりができないだろうか。卒業生全体としてのつながり、同窓会が活性化するとよい。
- それぞれの部活動での縦のつながりがある。例えば生物部。
- 5年に一度、会員名簿を作成している。以前は無償配布だったが、今は有償である。詐欺等の問題があるので、今の名簿は職業を入れてない。年に一度の総会があるが、現役で働いている人が多いので多くの参加は難しい。創立100年を超える規模の学校だと参加者も増えるようだ。今は、活動できる人間で運営している。卒業時に永年会費を徴収し、活動費は年に200万円くらい入る。まなびや基金、部活動への助成、卒業証書の筒等に拠出している。
20周年行事は開催したが、30周年、40周年は開催しなかった。50周年は開催する。目的は会員の交流及び母校の発展。通信費（郵送費）が150万ほどかかってしまうので、HPで呼びかけをしたい。学校のHPにリンクが貼ってある。
ほとんどの卒業生が大学に進学するので、高校のつながりが希薄になってしまう印象がある。来年、1期生が60歳を迎える。
- 在校生へとつながる活動をしてほしい。卒業生に来てもらうネットワークになればと思う。
- 6期生が平成27年度の同窓会をパシフィコ横浜において120人規模で行った。校長からも挨拶をいただいた。年代にもよるが、単発的なものになっている。20周年は多数の参加があった。
- 大学も卒業何周年とかで企画している。例えば、本校でも卒業後40年というような企画を持てば、横のつながりができるのではないか。周年行事に記念品を出すなどもよいかもしれない。
- 有名人などがいれば活発にすることはできる。
- 50周年は盛大に開催したい。現役を退いて興味を持ってくれるかもしれない。
- 5年ごとに、卒業式の翌日に卒業生のパーティーを開くのはどうか。5歳違いの先輩と会うことで、縦のつながりができる。
- 文化祭の開催中に同窓会の部屋を用意することはできないか。気軽に来ることのできる場所があるとよいと思う。

- オープンスクールでホームカミングデーを企画するのもよいかもしれない。
- 伝達ツールが必要。SNS（フェイスブック）などもよいのではないか。
- 私の出身校では、30年目になった代が準備する。上の代に相談が必要となるため、そこでつながりができる。
- ホームカミングデーについて、何期に連絡するとか、在校生をどうするとか、知恵を絞っていきたい。同窓会で考えて、来年以降、進めていきたい。

(2) 自転車交通事故の防止について

- 生徒の登下校のマナーが良くないということで、先日、青葉警察署の方が来校し、助言をいただいた。特に自転車マナーである。外部からの苦情はそう多くないが、交通マナーとコンビニ前でのたむろの二点である。校内での生徒たちの素晴らしい取組よりも校外での一部の生徒の望ましくない行動の方が目立ってしまう。
- 毎年、PTAで通学状況を確認しているし、整備状況の点検はやっている。保護者も含めて何らかのアクションを起こさなくてはならない。
- 友達と一緒にだと横に広がってしまう。一時停止しない。交通安全講話を青葉署にやってもらっているが、一人だときちんとできていることが集団になったときに必ずしもできていない。
- 予算が必要であるが、スタントマンがやってくれる交通安全教育はどうか。
- 校数は限られるが、県の予算で行っている学校もある。自転車事故でも何千万という高額の賠償金が発生している事例がある。
- そもそも、自転車通学開始前にどのような指導をしているか。自転車での通学を許可する前に、ルールを学ばせたりする機会を設けるのもよいと思う。
- ユースプロジェクトで安全な町づくりについて何か企画できないか。警察も巻き込んで町ぐるみで交通安全活動を展開していきたい。
- 講話は年1回でいいのか。時期としては夏休み明けがよいのではないか。
- 交通安全講話は、夏休み明けすぐではないが、9月下旬に行っている。

6 その他

- 運営協議会は昨年度から数えると今回が7回目。年度ごとにやり直しでは話がつながらず、達成感がない。回数は連番にした方がよい。
- 学校に電話しても担当者につながりにくいという話を二度ほど聞いた。
- 広報活動として、学校の広報紙を中学へ送ったり、文化祭に招待したりするのはどうか。保護者同士のつながりをつくるのもよいと思う。
- 中学生の保護者の理解を得ることは大切である。高校受験では、保護者の意見もかなり反映される。

7 事務連絡等

- 次回は10月27日（土）に開催する。期間が開くので、情報・相談等あったら事務局へメール等で連絡をいただきたい。
- 運営協議会委員間でメールで連絡をとりたいが、事務局から送られてくるメールがBCCなので、アドレスが分からない。
- 本日の欠席者も含め、確認がとれ次第、アドレスをオープンにする。

以上